第１回データ利活用研究コミュニティワークショップを開催

９月５日、伊藤国際学術研究センターにおいて、第１回データ利活用研究コミュニティワークショップを開催した。同ワークショップは、データ利活用に関する学内でのコミュニティを形成することを目的として、学内から提案された研究活動を中心に、部局を越えて人・プロジェクトをつなぎ、学内連携の推進と学外との連携を図るために、未来社会協創推進本部データプラットフォーム推進タスクフォースが主催したもので、学内学外を含め１４０名余りの参加があった。

はじめに、伊藤謝恩ホールにおいて、同タスクフォース座長である 相原 博昭 大学執行役・副学長から開会挨拶と「データ利活用の重要性、その中で知識集約産業のハブとしての大学の役割を強調し、Society5.0 の実現に向けてこのプラットフォーム構築を強く進める」との五神総長のメッセージが紹介され、また、来賓の文部科学省研究振興局原克彦参事官（情報担当）からは、データプラットフォーム構築、コミュニティ形成の重要性に触れるとともに、東京大学の果たす役割への期待が示された。次に、中村 宏 総長特任補佐（副座長）からデータプラットフォーム構想の説明があった後、古村 孝志 地震研究所教授・中村 仁彦 情報理工学系研究科教授・松原 宏 地域未来社会連携研究機構長・柴崎 亮介 空間情報科学研究センター教授・喜連川 優 国立情報学研究所長の５名から各テーマに基づく講演が行われた。

その後、講演者に加え 有馬 孝尚 総長特任補佐をパネリストにして、『「データ利活用社会の作り方」～日本を「成功モデル」にするためのチャンスと課題～』をテーマに、田浦 健次朗 情報基盤センター長のテンポの良い進行のもとに、パネルディスカッションが行われ、会場の参加者も加わって、活発な議論がなされた。

続いて、多目的スペースにおいて、約 40 の発表によるポスターセッションが行われ、コーヒーを片手に会話が弾み、連携推進のためのコミュニティ形成が図られた。

今後もこのようなワークショップを開催する予定であり、データ利活用に関するコミュニティの更なる発展が期待される。

写真１：挨拶する原参事官

写真２：パネルディスカッションの様子

写真３：ポスターセッションの様子